

製品名: CB2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08033**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	CNR2
別名	CNR2; Cannabinoid receptor 2; CB-2; CB2; hCB2; CX5
遺伝子 ID	1269.0
SwissProt ID	P34972
免疫原	抗血清はヒト CNR2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

背景

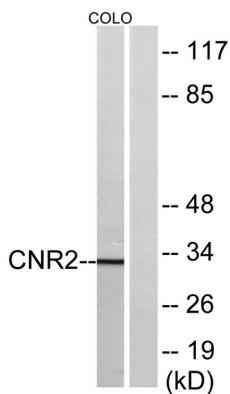
カンナビノイドであるデルタ-9-テトラヒドロカンナビノールは、マリファナの主要な精神活性成分です。この遺伝子とカンナビノイド受容体1（脳）（CNR1）遺伝子によってコードされるタンパク質は、カンナビノイドに対するグアニンヌクレオチド結合タンパク

質 (G タンパク質) 共役受容体としての特性を有しています。これらのタンパク質は、用量依存的、立体選択的、かつ百日咳毒素感受性の様式でアデニル酸シクラーゼ活性を阻害します。これらのタンパク質は、マリファナ使用者が経験するカンナビノイド誘発性中枢神経系作用 (気分や認知機能の変化を含む) に関与していることが明らかになっています。カンナビノイド受容体は、G タンパク質共役受容体ファミリー 1 に属します。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: CB2 遺伝子座における対立遺伝子変異は、日本人集団におけるうつ病の遺伝的素因と関連している。、機能: エンドカンナビノイド 2-アラキドノイルグリセロールのアデニル酸シクラーゼ阻害を媒介するヘテロ三量体 G タンパク質共役受容体。炎症反応、疼痛伝達、および骨の恒常性維持に機能する可能性がある。、PTM: Ser-352 が恒常的にリン酸化されており、リン酸化は細胞内への取り込みを促進し、受容体を脱感作する。、類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。、細胞内局在: 錐体ニューロンの頂端樹状突起に局在する。、組織特異性: 免疫系の細胞で優先的に発現し、B 細胞および NK 細胞でより高い発現を示す (タンパク質レベル) 。皮膚の基底上層および毛包に発現している (タンパク質レベル) 。扁桃腺で高度に発現し、脾臓、末梢血単核細胞、胸腺では低度に発現している。PubMed:14657172 では正常脳での発現は検出されなかった。脳では血管周囲ミクログリア細胞および後根神経節感覚ニューロンに発現している (タンパク質レベル) 。

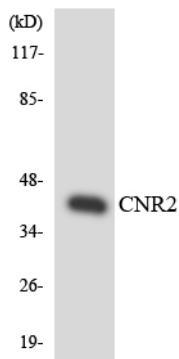
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

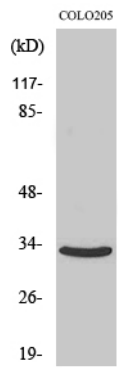
画像データ



COLO205 細胞ライセートの CNR2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CNR2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CB2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析